

令和6年度地域包括支援センター運営部会議事録

日時 令和6年8月1日（木）

午後3時～4時

会場 豊明市商工会館1階イベントホール

1、あいさつ 健康福祉部長

部会長

職務代理

2、議題

（1） 地域包括支援センター運営方針及び運営体制について（資料1-1、1-2）

資料をもとに、事務局から概要を説明した。

- ・ 資料1-1のとおり、介護保険事業計画の「ふつうに暮らせるしあわせを支える地域のかづくり」を基本理念とし、『地域包括システムの深化・推進』を具現化していく。
- ・ 令和6年度からは、世代や対象を問わない包括的な支援体制として、共生社会課内に重層支援センターを設置し体制強化を図っている。
- ・ 地域包括支援センターの現状として、家族の課題や事業所からの相談として高齢者以外に係る相談に対応する事例が増えてきているが、上記重層支援センターと情報共有しながら対応を進めている
- ・ 増え続けていた高齢者人口が令和4年度末に前年度より減少したが、後期高齢者人口は増え続けており、2025年問題が既に始まっているような状態にある。
- ・ 地域包括支援センターへの相談件数も増え続けている。

（2） 令和5年度地域包括支援センター実績報告及び令和6年度地域包括支援センター事業計画（資料2-1、2-2、資料3-1、3-2、資料4-1、4-2、4-3、4-4）

資料をもとに、各地域包括支援センターから概要を説明した。

北部地域包括支援センター（資料2-1、2-2）

- ・ 世帯全体への支援が必要なケースや困難ケースへの対応が増えている。

中部地域包括支援センター（資料3-1、3-2）

- ・ 独自の事業として「認知症予防カフェ&太極拳の集い」「認知症カフェやっとかめ」を企画、開催。
- ・ 包括支援センター相談日として、土曜日・祝日の受付を行い、年間新規38件（南北包

括管轄相談 11 件)

南部地域包括支援センター（資料 4-1、4-2）

- ・ 新規地域資源として、大根区ウォーキングを開始した。

【質疑応答】

委員：

- ・ 南部地域包括支援センターの「本人ミーティング」とは本人が参加しているのか。
→回答（南部包括）
本人が参加している。また、認知症の有無にかかわらずどなたでも参加できる。
- ・ なごみ亭での「本人ミーティング」の内容はどのようなものか。
→回答（南部包括）
古民家カフェであるなごみ亭でお茶を飲みながら、認知症当事者、当事者様を支えるご家族様とのんびりとした時間を過ごしている。

部会長：

- ・ 中部地域包括支援センターの土曜・祝日の相談件数は増加しているか。また今後も継続するのか。
→回答（中部包括）
増加はしておらず横ばい状態にある。ただ、電話対応のみで終わらず家庭訪問を行った相談が 1 件あった。
土曜・祝日の勤務については、もともと法人としての勤務日として設定されている。

委員：

- ・ 相談件数が多いが、運営は大変か。
→回答（北部包括）
人力的には余裕がある状態とは言えない。重層支援センターができ協力しながら対応している。

(3) 基幹型地域包括支援センターの設置(資料5-1、5-2、5-3)

資料をもとに、事務局から概要を説明した。部会長により令和6年10月1日からの基幹型地域包括支援センターの設置及び介護保険法施行規則第140条の66の一部改正に伴う3職種の柔軟な職員配置と常勤換算方法の適用について審議が行われ、全委員から承認を得、本件は承認された。

【質疑応答】

部会長：

- ・ 保健師の設置とその換算方法について、事例が増えても対応可能か。

→回答(事務局)

重層支援センターでは、毎朝のミーティングで、必要な人員を配置できるよう打ち合わせを行い、かつ支援中であっても密に連絡・連携が取れるようになっているため、現状問題はない。

- ・ 重層支援の対象はどこか。また今後の件数の見込みはどれくらいを想定しているか。

→回答(重層支援センター)

対象は困難に直面している方々がすべて対象である。そのため対象は多様であるが、各専門の部署やセンターと連携しながら進めている。今後の件数の見込みは未知数ではあるが、実績としては4月からの3か月で20件対応している。

(4) その他

特になし。

以上